



楽しく繰り返し学んで 消費者トラブルを防止 —高校生による「かるた」の制作と実践— (2)

青木 由紀子 Aoki Yukiko 埼玉県立浦和商業高等学校 家庭科教諭
2022年度より埼玉県消費生活支援センターへ出向、同センター長期研修生

前号*は「浦商消費者教育かるた」(以下、本教材)制作の経緯などについて紹介しましたが、今号は本教材完成後の活用について紹介します。

高校生による啓発チームの発足

2022年度、県から支給された「若者の消費者力アップ支援事業」の予算で本教材を100セット制作しました。また、本教材の普及活動を行うため、本校の有志の生徒8名による「かるた^{エイ}8」という啓発チームを発足させました。

まず、メンバーは本教材の内容を正しく伝えるために読み聞かせ合いを行ったほか、他校から競技かるた部の教員を特別講師として招き、かるたのルールや読み上げる際の声の出し方、札を取る際の構え方など、本格的なかるたの作法を学びました。かるた8は、校内では3学期に他クラスの家庭科の授業に出向いてかるたの実践を指導するなどの活動を行いました。

中学校での活用に向けて

私は、本教材を高校の授業のほか、中学校にも活用してほしいと考え、県の高校教育指導課や義務教育指導課、さいたま市教育委員会を訪問しました。校種や管轄が異なるので導入のハードルが高いのではないかと思います、当初は本校の所在するさいたま市南区内の中学校6校に活用してもらおうと考えていました。しかし、思いがけず、かるたは教材として使いやすく、生徒もかるたが好きとのことで、積極的に興味を持っていただき、同市内全域の約60校の中

学校を対象に貸し出しのかたちで活用してもらえることになりました。そこで、2023年2月に同市教育委員会に本教材60セットを寄贈しました。現在も複数の中学校に貸し出しされ、授業で活用されているようです。

また、消費者庁の第5期消費者教育推進会議委員であり、本校に隣接する市立白幡中学校校長(当時)が、中学校での本教材活用の窓口となってくださいました。中学校校長は、前述のかるた8が本校の3学期の家庭科の授業でかるたの実践を指導するようすを見学し、その流れで、かるた8による中学生へのかるた教室を実施することとなりました。

中学生へのかるた教室の実施

2023年度に入り、本教材やかるた8の活動について新聞社2社からの取材を受けました。そして、中学生へのかるた教室当日は地元テレビ局の取材が来ることになりました。かるた8のメンバーのやる気も一気に向上し、消費者問題の内容を各自復習したり、競技かるたのルールを再度確認するなど、自分たちが中学生に教えることに責任感を持って取り組んでいました。

6月に実施したかるた教室では白幡中学校の3年生7名が来校し、数グループに分かれ、かるた8から本教材の内容と取り方の説明を受けました。かるた8は中学生に伝わるよう熱心に説明していました。1回目は読み手が読んだ読み札に合う絵札を取り、取った枚数を競う通常の方法、2回目は絵札を取った人が絵札裏面の

* ウェブ版「国民生活」2023年9月号「消費者教育実践事例集」参照 https://www.kokusen.go.jp/wko/pdf/wko-202309_08.pdf

法律や制度の解説等を読み上げる方法で実践しました。中学生は学校で百人一首大会を行うなどかるたになじみがあるようで、中学生と高校生の垣根を越えた、白熱したかるた教室となりました(写真)。

かるた教室に参加した中学生のアンケート結果

Q 消費者トラブルという言葉を知っているか？

- ・知っている 3名
- ・知らない 4名

Q 消費者教育を受けたことがあるか？

- ・ある 1名
- ・ない 6名

かるた教室に参加した中学生の感想

- ・楽しいだけでなく消費者トラブルについて知り、解説を読むことで理解が深まった
- ・高校生が優しく教えてくれ貴重な経験だった
- ・自分は大丈夫という考えを改めようと思った
- ・詐欺にあった時の相談先や、支払方法などを学ぶことができた。友達にも共有したい

かるた教室で指導した高校生の感想

- ・思っていたよりも中学生が楽しんで笑顔でやってくれていたのが、かるたを作った側としてはうれしい
- ・自分が思っていることを言葉にして伝えるのが難しいと感じた。消費者教育の内容について自分の理解もさらに深まった

このような感想があり、高校のみならず中学校における消費者教育推進の重要性も感じました。

今後の課題や展望

このほかにも、新聞等で取り組みを知った県内の自治体や学校関係者からの反響や、(公財)消費者教育支援センターの消費者教育教材資料表彰2023で優秀賞を受賞するなど、生徒たちと制作した本教材が認められたことは、活動の励みになっています。さらに、本校のOA部の生徒が「持続可能な生産消費形態」のテーマで本教材について研究し、夏休み中の競技大会で発表を行ったり、9月にはかるた8が県内のイベントに参加し、小学生向けのかるた教室も行うなど、校

内外で活用されています。また、県内の教員向けの研修会でも紹介していますので、今後も学校で広く活用してもらえたらと思います。

本教材の課題として、手作りのため強度が低く、業者への製作委託は予算の関係で実現が難しいことと、漢字を多く使用しているため、小学生が使う場合、特に低学年では使いにくいことが挙げられます。今後はより使いやすくなるよう改良したいと考えています。

今回の教材制作を通し、高校生が自主的に考え、それを他者に伝えることで、知識と関心が高まったことを感じています。今後もかるた8と一緒に中学校などに出向き普及活動を行ったり、学校の授業でも使ってもらうことで、学びの機会を広げ、消費者トラブルの減少につながられればと願っています(図)。

写真 中学生へのかるた教室の風景



図 本教材の紹介リーフレット



<https://www.pref.saitama.lg.jp/documents/235009/urasyokarutaannai.pdf>